

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
 プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	キイトルーダ(尿路上皮がん)
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ur-35
登録日・更新日	2018年 2月 27日
削除日	
出典	キイトルーダ点滴静注 適正使用ガイド 審議結果報告書
入力者	小倉 宏之

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	キイトルーダ点滴静注	20mg, 100mg	200mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	30分	day1
	生理食塩液*1	50mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(1日) ・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	100%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【延期基準】 Grade 2以上の間質性肺疾患、Grade 2以上の大腸炎/下痢、 AST(GOT)若しくはALT(GPT)が基準値上限の3~5倍又は総ビリルビンが基準値上限の1.5~3倍に増加した場合、 Grade 2以上の腎機能障害、Grade 2以上の下垂体炎、症候性の内分泌障害(甲状腺機能低下症を除く)、 Grade 3以上の甲状腺機能障害、Grade 3以上の高血糖、1型糖尿病 Grade 2のInfusion reactionの場合(1時間以内に回復する場合には、投与速度を50%減速して再開する)</p> <p>【中止基準】 Grade 3以上又は再発性のGrade 2の間質性肺疾患、Grade 4の大腸炎/下痢、 AST(GOT)若しくはALT(GPT)が基準値上限の5倍超又は総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加した場合 (肝転移がある患者では、AST(GOT)又はALT(GPT)が治療開始時にGrade 2で、かつベースラインから50%以上の増加が1週間以上持続する場合) Grade 3以上の腎機能障害、Grade 3以上の場合又は再発性のGrade2のInfusion reaction 副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合 上記以外でGrade 4の副作用発現時</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>*1 日局生理食塩液又は日局5%ブドウ糖注射液の点滴/バッグに注入し、最終濃度を1~10mg/mLとする。 インラインフィルター(0.2~5µm)を使用して投与</p> <p>・劇症型1型糖尿病の早期発見のため、定期的に血糖値を測定する。(外来は受診毎に測定) 血糖値 200mg/dLを目安とする。</p> <p>・自己免疫性疾患の発現に注意する。</p> <p>・間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状(息切れ、呼吸困難、咳嗽、疲労等)の確認及び胸部X線検査、胸部CT検査の実施等、観察を十分に行うこと。また、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。(キイトルーダ添付文書:警告の項より)</p>

記入者	小倉 宏之
確認者	大山 優